

課題対応取組報告書

名称	北区梅田東地域総合相談窓口
提出日	令和 7 年 5 月 30 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設（居場所づくり等）
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
	<input type="checkbox"/> その他（ ）	
活動テーマ	住民組織との協働により構築する気づきのネットワーク	
地域ケア会議から 見えてきた課題	<p>・認知症高齢者や身寄りのないひとり暮らし高齢者が孤立した状態で生活している世帯が多く、支援が必要なケース発見及び介入が難しい。</p> <p>・マンション居住高齢者や既存の地域活動に参加していない方の実態把握が難しく、早期発見・介入のために民生委員や地域住民などの住民組織と日頃からのネットワーク構築が必要である。</p>	
対象	住民、民生委員、地域福祉コーディネーター、北区社会福祉協議会、北区地域包括支援センター（以下「北区包括」という）等	
地域特性	<p>・担当圏域は梅田周辺の6地域で高層マンション、商業エリア、古い町並みが混在した地域である。北区人口の9割がマンション等での生活となっており、梅田東・済美・堂島・中之島地域の高経年のマンション等では住人の高齢化が進んでいる。特に扇町市営住宅の高齢化率は非常に高い。</p> <p>・担当6地域全てで百歳体操が立ち上がり、徐々に地域活動も活発になってきている。梅田東・済美・北天満地域では高齢者も多く、以前より地域活動は活発である。堂島・曾根崎地域は高齢者人口が少ないものの、体操などの地域活動は定期的に行われている。中之島地域は小中一貫校の会議室を借りて新たに地域活動が開始されている。</p>	
活動目標	<p>・扇町市営住宅の高齢者見守り活動について、民生委員・地域福祉コーディネーター・北区包括・北区社会福祉協議会と検討実施し、支援が必要な住民について早期から見守り訪問を行い、相談しやすい関係性を築く。</p> <p>・地域活動へ積極的に参加し、参加されている地域の支援者や地域住民などへ相談窓口の周知を行い、住民組織による気づきから早期発見・介入に繋げる。</p>	
活動内容 (具体的取組)	<p>1.北天満小地域（扇町市営住宅）ケア会議 実施日：【1回目】R6年5月28日（火）【2回目】R6年11月14日（金） 参加者：民生委員、北天満地域福祉コーディネーター、北区包括、北区社会福祉協議会見守り相談室、梅田東地域総合相談窓口（以下「ランチ」とする） 実施内容： 【1回目】 ・これまでに各機関で取り組んできた内容の共有と見守り体制の共有。 ・今年度の取組みとして、9月敬老の日に民生委員と70歳以上世帯の訪問を計画した。 【敬老の日70歳以上世帯訪問】：R5年9月5日（木） ・33世帯を民生委員とともに訪問、敬老の日のお祝い品を渡すと共に「ランチチラシ（※資料1）」を配布した。 訪問時不在だった3世帯には「ランチチラシ」を投函した。 【2回目】 ・敬老の日70歳以上世帯訪問の結果共有と、各機関での介入状況の共有を行った。</p> <p>2.地域活動への積極的な参加 ①ふれあい喫茶、食事サービスへの参加 北天満地域の食事サービス、梅田東・済美地域のふれあい喫茶、済美地域の認知症オレンジカフェに参加し、地域関係者と情報共有や直接住民からの相談を受け、早期からの介護保険申請相談や地域での見守りに繋げている。 ②百歳体操への参加 担当圏域6地域で開催されている体操に月1回参加し、地域関係者との情報共有や参加者・住民からの相談を直接受けるなど、身近な相談窓口として周知を行っている。中でも梅田東・済美・北天満地域の百歳体操では、区保健福祉センター保健師・済生会法人内の医師・看護師と協働で体操前の血圧測定を実施し、高齢者の健康状態の把握と問題の早期発見に努めた。 ③脳活性化プログラムの実施 認知症予防の取組みとして脳活性化プログラムを定期的に3か所（梅田東・北天満・堂島）で実施、認知症予防とランチ周知、参加者からの相談受付に取り組んだ。年度途中から立ち上げとなった中之島地域でも、地域からの要望を受け脳活性化プログラムを実施した。</p>	

<p>成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)</p>	<p>1.北天満小地域（扇町市営住宅）ケア会議 ・もともと介入していた複数名とは別に8人の方について新たにプランチが見守り継続、その他複数名について北区包括、北区社会福祉協議会見守り相談室、民生委員、地域福祉コーディネーターにて見守り継続となった。 ・1名について介護保険申請、認知症初期集中支援チームへの新規依頼し、認知症の鑑別診断と合わせてサービス介入に至った。</p> <p>2.地域活動への積極的な参加 ・ふれあい喫茶や食事サービス、百歳体操への参加、脳活性化プログラムの実施により、相談窓口の周知に繋がった。参加者から直接相談を受けたり、参加者から地域で気になっている方の情報を頂くことで、相談件数の増加に繋がったと感じている。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>・現在の活動を継続し、地域関係者や地域住民との関係性をさらに深めていく。 ・曾根崎地域は高齢者人口が少なく、地域活動としても体操のみしか参加できていない。地域福祉コーディネーターも新たに配置されているため、今後更なるネットワーク構築が必要と考える。 ・中之島地域では、小中一貫校の会議室を借りて新たに百歳体操を開始されている。百歳体操への参加、脳活性化プログラムの実施を継続し、住民組織とのネットワーク構築を目指す。</p>
<p>※以下は、区運営協議会事務局にて記入</p>	
<p>区地域包括支援センター 運営協議会開催日</p>	<p>令和 7年 7月 22日 (火)</p>
<p>専門性等の該当 (※該当個数は問わない)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性</p>
<p>評価できる項目（特性） についてのコメント</p> <p>* 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。</p>	<p>積極的に地域に出向き、様々な地域活動への参加や、マンションアプローチを続けている。顔の見える関係の構築により相談窓口の周知活動にもつながり、地域からの相談や高齢者からの直接の相談も増え、浸透性・拡張性のある取り組みである。</p> <p>また、認知症予防の取り組みとして脳活性化プログラムも継続して実施しており、新たな地域でも要望を受け実施を開始しており、専門性のある取り組みとして評価できる。</p> <p>今後も活動を継続し、高齢者人口の少ない地域でも、更なるネットワーク構築ができるよう期待する。</p>

課題対応取組報告書

名称	北区豊崎地域総合相談窓口（ランチ）
提出日	令和 7 年 6 月 6 日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設（居場所づくり等）
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input checked="" type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
	<input type="checkbox"/> その他（ ）	
活動テーマ	自分らしく生きる。地域で支える。	
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域ケア会議では、70代の女性単身世帯が多く、要介護1の割合が高い一方で、虐待ケースも散見される現状が浮き彫りになりました。特に、認知症高齢者の財産管理や身上監護の問題（成年後見制度の利用増）、精神疾患を抱える高齢者の在宅生活の困難化が喫緊の課題として挙げられています。また、介護家族の負担増に伴う施設入所の検討、精神科医療への抵抗感、ヘルパー介入拒否といった複合的な問題も明らかになりました。さらに、高齢者の趣味活動や地域活動への参加促進が重要な課題であり、コロナ禍による活動停止の影響、高齢になってからの地域デビューの難しさ、スマートフォン操作を要するオンデマンドバス利用におけるデジタルデバイドなどが、地域での孤立を深める要因となっていることが示唆されました。	
対象	本庄・豊崎地域の高齢者	
地域特性	本庄・豊崎両地域は、近年、流動人口と高齢者人口がともに増加傾向にあります。住民の約9割がマンションに居住しており、大規模マンションの建設も進むことで、住民の転入・転出が非常に活発です。このため、従来の地域のネットワークが分散・希薄化しやすく、結果として地域とのつながりが少ない、あるいは孤立しがちな高齢者が多く存在している。	
活動目標	高齢者が地域活動へ主体的に参加できる機会を創出し、孤立防止と健康寿命の延伸に寄与する。	
活動内容 （具体的取組）	今年度も、昨年度に引き続き、自宅で手軽に取り組める運動を紹介するチラシの作成・配布と、その運動方法を解説した動画のインターネット配信を継続しました。この取り組みは、特に外出が困難な高齢者や、自身の健康に漠然とした不安を感じている方々に対して、自宅でできるフレイル予防の機会を提供することを目的としています。大淀老人福祉センターや豊崎会館、本庄会館への掲示と持ち帰り用設置に加え、地域住民の集まる場でも積極的に周知を図りました。 本庄会館では、月例の「ふれあい喫茶」と連携した地域住民向け相談会を継続的に開催しました。相談会の周知には、地域の会館へのチラシ掲示や大規模マンションへのポスティングに加え、地域の「登校児童見守り隊」に参加し、散歩中や出勤途中の住民への積極的な声掛けや相談会の案内を行いました。この地道な活動により、北区認知症初期集中支援チーム（以下「北区ハートフルオレンジチーム」という）との連携が必要となるような深刻なケースの相談も寄せられ、また見守り隊の方々からも「心配な高齢者」に関する情報が提供されるなど、地域住民からの情報収集と連携強化に繋がりました。 さらに、本庄地域で開催された北区ハートフルオレンジチーム主催の講演会の一コーナーとして、「健康ケア体操」を実施し、座ってできる簡単な運動を通じて、高齢者が身体活動へ関心を持つきっかけを提供しました。また、豊崎地域で大淀地域包括支援センターが主催した映画上映会では、上映後の時間を利用して成年後見制度に関する講話を実施しました。これにより、財産管理に不安を抱える高齢者やその家族に対し、専門的な情報提供と相談の機会を設けました。 その他、地域の食事会や百歳体操など、高齢者が集まる場へ積極的に参加し、総合相談窓口（ランチ）の周知を行いました。加えて、熱中症や詐欺被害、高齢者虐待への注意喚起、そして「人生会議」に関する話をするなど、多岐にわたるテーマで情報提供と啓発活動を行いました。地域ケア会議で浮上した課題を踏まえ、個別の相談会では医療機関や関係専門機関との連携を強化し、介護負担軽減に資する情報（介護保険サービスやインフォーマル資源など）をきめ細やかに提供するよう努めました。	

<p>成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)</p>	<p>継続して配布した「自宅で取り組める運動」のチラシは、ケアマネジャーを通じて自宅に引きこもりがちな高齢者へ届けられ、「こんな風に運動したらいいの?」と具体的な興味を示す声が聞かれました。これにより、高齢者が自身の健康に対して主体的に関心を持つきっかけが提供され、フレイル予防への意識向上に一定の効果があったと考えられます。UR都市機構のマンションで実施した百歳体操も継続的に開催され、参加者からは「体を動かす良い機会になっている」との肯定的な感想が寄せられています。</p> <p>本庄地域の相談会は、ふれあい喫茶と連携し、ほぼ毎月開催を継続しました。過去に支援が中断していた方や、「今は必要ないが今後を見据えて介護保険について知りたい」といった新規の相談者など、これまで相談の機会が少なかった層からの相談が着実に増加しました。相談会のチラシが各町会の掲示板に掲示されるなど、地域資源としての認知度が高まり、地域住民からの情報提供も活発化しました。特に、朝の見守り隊への参加は、散歩中の高齢者や同居家族との接点を増やし、「心配な高齢者」の情報収集に繋がるとともに、地域住民が見守り活動へ積極的に関与するきっかけとなりました。</p> <p>北区ハートフルオレンジチーム主催の講演会における「健康ケア体操」の実施は、参加者から「座ってできる運動なので、無理なく続けられそう」と好評を博し、身体活動へのハードルを下げる効果がありました。豊崎地域の映画上映会で実施した成年後見制度に関する講話では、参加者から「具体的な制度内容が理解できた」「どこに相談すればよいか分かった」といった声が聞かれ、財産管理に関する高齢者や家族の不安解消に貢献しました。</p> <p>また、介護負担に関する相談に対して、介護保険サービスやインフォーマル資源に関する情報提供を積極的に行ったことで、相談者の精神的負担の軽減にも繋がりました。加えて、地域住民より「もう少し人生会議についての話が聞きたい」といった具体的な要望が寄せられるようになり、高齢者の関心が高まっていることが確認できました。これは、今年度、成年後見制度や人生会議に関するさらに踏み込んだ情報提供を行うことに繋がっています。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>高齢者の健康意識をさらに高めるためには、百歳体操や認知症予防講演、朝の声掛け、相談会といった地道な活動を継続していくことが不可欠です。特に、UR都市機構のマンションの百歳体操については、自治会長の交代という課題に直面しているため、今後は自治会との連携を一層強化し、参加者を増やすための広報戦略の検討や、継続的な支援体制を構築していくことが喫緊の課題です。</p> <p>本庄地域の相談会は、土曜開催への変更により参加しやすくなったものの、ふれあい喫茶参加者の多くが直接相談につながるわけではありません。今後は、ふれあい喫茶参加者へのより丁寧な声掛けや、気軽に相談できる雰囲気づくりを工夫し、相談へのハードルを下げていく必要があります。また、本庄地域での成果を参考に、大淀老人福祉センターや豊崎地域など、他の地域への活動展開も積極的に視野に入れ、地域全体での包括的な支援体制の構築を目指します。</p> <p>地域ケア会議で明らかになった、高齢になってからの地域デビューの難しさや、友達がいない人へのアプローチといった課題に対しては、既存の活動だけでは不十分な部分があります。今後は、高齢者の多様なニーズに応えるべく、様々な角度から新しい地域活動や交流機会の創出を検討し、より多くの高齢者が地域とのつながりを持てるような支援体制を構築していくことが、今後の重要な課題となります。</p>
<p>※以下は、区運営協議会事務局にて記入</p>	
<p>区地域包括支援センター 運営協議会開催日</p>	<p>令和 7年 7月 22日 (火)</p>
<p>専門性等の該当 (※該当個数は問わない)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性</p>
<p>評価できる項目(特性) についてのコメント</p> <p>* 今後の取組継続に向け、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載</p>	<p>ふれあい喫茶と連携した相談会や、朝の見守り隊での声掛け運動といった、地域に根差した活動を地道に継続されており評価できる。</p> <p>地域のイベント等で、積極的に高齢者に関する制度の周知啓発を行い、法人の多職種とも連携し介護予防や健康に関する運動を実施するなど専門性を生かした活動をされている。</p> <p>今後は、一部の地域で積極的に行っている取組みについて、他の地域へも活動が展開できるよう期待する。</p>